

2023 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	田中 夕子
研究テーマ	10 世紀における民間宗教者の活動基盤—『貞信公記』の考察を中心に—
研究概要	平安時代の僧、空也が活動した同時代の貴族の日記『貞信公記』の仏事について検討する。特に攘災に関わる仏事記事から社会状況に関わる宗教のあり方を、そして忠平の父祖への供養等の記事から個人の信仰を考察する。この検討を通して、空也の活動基盤となる時代の宗教と社会・個人のあり方、空也の活動の意義を明らかにする。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>本年度は藤原忠平（880～949）の日記『貞信公記』に記された公私の仏事を考察した。忠平が関わった公私の仏事の主な目的は、現世の安穩を祈ることであった。仏事で行われた内容は、主に僧侶による經典読経や修法であった。『貞信公記』以前に撰述された国史における修法記事は稀であり、『貞信公記』以後に書かれた貴族の日記における修法記事は大幅に増加していた。これらのことから、忠平の活躍した時期は、公私共に修法が定着し始めた時期と位置づけることができる。</p> <p>来世への信仰に関しては、忠平が自分の来世の安穩を願った逆修や親の冥福を祈った追善の記事があった。また、忠平が兄仲平没後すぐに浄土図を模写させた記事もあった。しかし、曾孫道長の時期のような熱烈な阿弥陀信仰を示す記事は残っていない。忠平に確固とした阿弥陀信仰があったことは不詳である。</p> <p>忠平が活躍した 10 世紀前半は民間宗教者の空也が活動していた。空也の活動は、『貞信公記』に書かれたような朝廷主催や忠平が行った攘災の仏事や宗教的行為（大般若經の転読、造像、困窮者や囚人の救済）との類似点が多い。空也の活動は朝廷の仏事との類似性があったからこそ、彼の活動が理解され、帰依を集められたと考える。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>〔論文等〕</p> <p>単「『貞信公記』にみる十世紀の信仰」『印度学仏教学研究』第 72 巻第 1 号、pp. 93～97、(2023 年 12 月、査読有)</p> <p>〔発表〕</p> <p>単「『貞信公記』にみる十世紀の信仰」日本印度学仏教学会第 74 回学術大会（2023 年 9 月 2 日、オンラインリモートシステム開催）</p>
3. 今後の課題	<p>空也のような民間宗教者の活動の意義を明らかにする上で、在俗者の個人的の信仰を考察することは必須である。そのため、今後は『貞信公記』のなかの忠平個人が行った仏事の目的とその行業を綿密に考察して、10 世紀の宗教者に求められていた救済活動の内容を解明していく予定である。</p>